



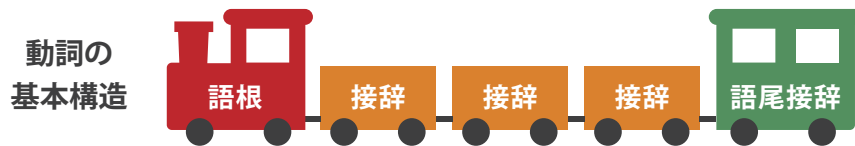
きほんこうぞう 動詞の基本構造

この教材では、動詞の構造こうぞうについて説明します。動詞の活用にも方言差がありますが、仕組み自体は集落に関わらず共通している部分が多くあります。ここでは、国頭方言くんじやいむにのデータを使って説明しますので、語そのものの形というよりも、どのような仕組みになっているかに注目してください。具体的な単語の形は、3-6から学ぶ1つ1つの動詞の活用形の教材を通じて説明します。

きほんこうぞう 1 動詞の基本構造

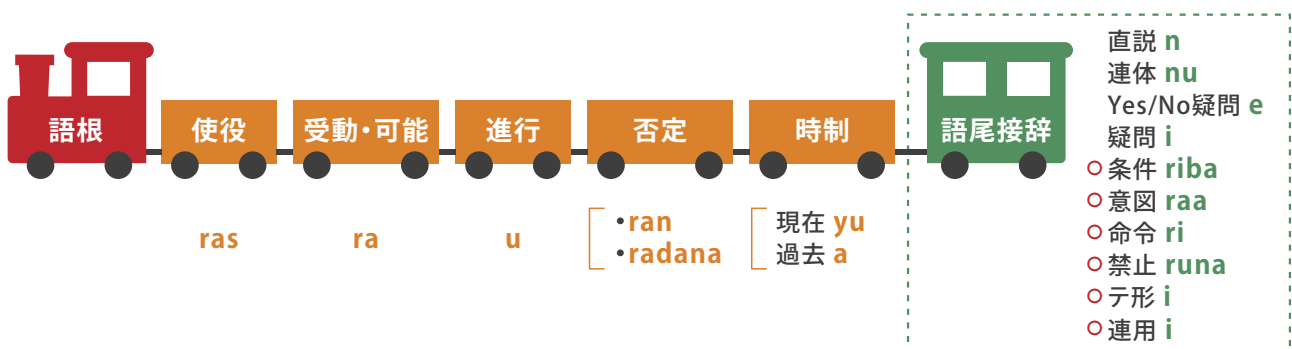
動詞の構造こうぞうについて、列車にたとえて説明します。動詞は、単語の意味を決める機関車ごこん（**語根**）に、様々な意味を持つ、付属ふぞくの車両せつじ（**接辞**）がついて出来ています。列車が走るためには、最初の機関車ごこん（**語根**）と、単語を閉じられる、最後の車両ごびせつじ（**語尾接辞**）が必要です。

単語の意味を決める **最初の車両（語根）** と、単語を閉じる **最後の車両（語尾接辞）** が必要



2 車両がつながる順番

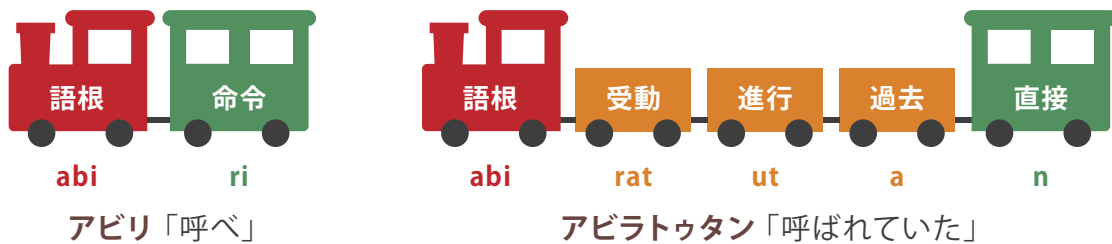
語根ごこん（機関車）の後に付く接辞せつじ（車両）は、つながる順番が決まっています。



語根ごこんのすぐ後には、**-ras**「～させる」という意味の使役接辞しえきせつじ、その後には、**-ra**「～られる／～できる」の受動／可能接辞じゅうどう かのうせつじ、**-u**「～ている」の進行接辞しんこうせつじ、**-ran**「～ない」の否定接辞ひていせつじ、**-yu**（現在）か **-a**（過去）の時制接辞じせいせつじ、そして語尾接辞ごびせつじが単語のおしりに来ます。

語尾接辞の中でも、○がついているものは語根に直接連結できるものです。例えば左下図のように「語根—命令接辞」というとても短い列車も出来ます。一方で、それ以外の語尾接辞は、語根の後に他の接辞(例えば時制接辞)が必要になります。例えば右下図のように「語根—受動—進行—過去—直接」のようにとても長い列車になることもあります。

図. 短い列車と長い列車



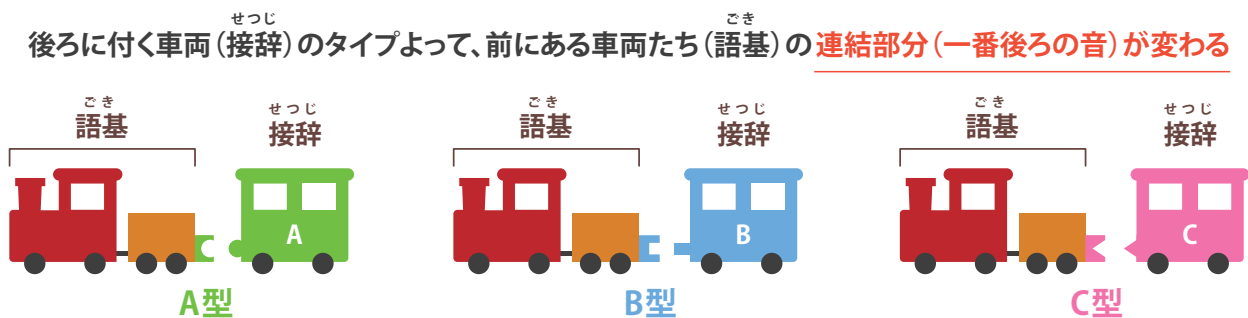
3 語基の交替

3-1 語基

しまむには、車両(接辞)の種類によって、前の車両との連結部分(接辞の前の音)が変わってしまうという性質があります。このことを説明するために、ここでは接辞の前の車両全体を、その接辞に対する「語基」と呼びます。

接辞は、大きくA型(基本形)、B型、C型の3タイプに分類できます。そして、接辞のタイプによって、語基の一番後ろの音が変わります。

後ろに付く車両(接辞)のタイプによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わる



3-2 接辞のタイプ

表2は、しむに動詞の代表的な接辞です。接辞には、(a) 語基A型に接続するもの、(b) 語基B型に接続するもの、(c) 語基C型に接続するものがあります。なお、ここに書いていない接辞は、前の語基を変化させません。

表2. 接辞の種類とグループ

名前 (表す意味)	接辞の形	語基 グループ	例: abi「呼ぶ」	例: mat「待つ」
命令	-(r)i	A型	abi-ri 「呼べ」	mat-i 「待て」
意志	-(r)aa		abi-raa 「呼ぼう」	mat-aa 「待とう」
禁止	-(r)una		abi-runa 「呼ぶな」	mat-una 「待つな」
条件	-(r)iba		abi-riba 「呼べば」	mat-iba 「待てば」
否定	-(r)an/(r)adana		abi-ran-N 「呼ばない」	mat-an-N 「待たない」
連用	-i	B型	abi-i 「呼び(たい)」	mac-i 「待ち(たい)」
現在	-ju		abi-ju-N 「呼ぶ」	mac-ju-N 「待つ」
丁寧	-jabu		abi-jabu-N 「呼びます」	mac-jabu-N 「待ちます」
テ形	-i	C型	abit-i 「呼んで」	mach-i 「待つて」
進行	-u		abit-u-N 「呼んでいる」	mach-u-N 「待つている」
過去	-a		abit-a-N 「呼んだ」	mach-a-N 「待つた」

※「例」は国頭集落の形です。語の具体的な形には方言差があります。

例えば「命令」の意味を表す **-ri** という接辞(子音の後に付く場合は **-i**)は、**語基A型**に接続します。「連用」の意味を表す **-i** という接辞は、**語基B型**に接続します。「進行」を表す **-u** という接辞は、**語基C型**に接続します。

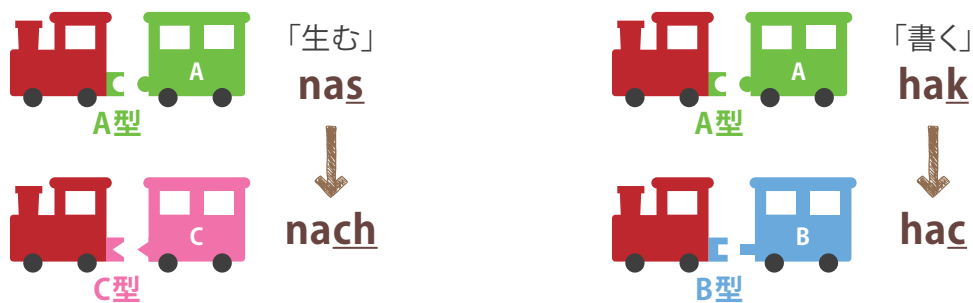
3-3 語基の交替

後ろにつく接辞のグループによって、前の部分(語基)の最後の音が変わります。語基の変わり方には、大きく8つのパターンがあります¹。表3は、語基の変わり方をまとめたものです。

表3. 語基の交替の仕方(国頭方言の場合)

語基のタイプ	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
語基A型(基本形)	母音	s	k	t	g	n	m	b
語基B	母音	s	c	c	z	n	m	b
語基C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

例えば国頭方言で、語基A型が s で終わる語(例:nas「生む」)は、語基C型では ch で終わる形(例:nach「生む」)になります。また、語基A型が k で終わる語(例:hak「書く」)は、語基B型では c で終わる形(例:hac「書く」)になります。



練習問題

(1)～(7)動詞が、語尾接辞に n (直説接辞) を取るとき、しまむにでどのような形になるか、考えてみましょう。なお、それぞれの動詞の語根は、次の通りです。

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|
| ① 呼ぶ abi | ② 産む nas | ③ 書く hak | ④ 待つ mat |
| ⑤ 泳ぐ uig | ⑦ 食べる kam | ⑧ 遊ぶ asib | |

- (1) 呼ばない () (2) 産んだ ()
 (3) 書くな () (4) 待て ()
 (5) 泳いでいる () (6) 食べていた ()
 (7) 遊べた ()

¹ 動詞の「する」「行く」「来る」、そして「見る」や「着る」などの動詞は不規則な変化をするので、別に説明します。